

研究 主題	英語を用いて自分の思いを整理し、目的に応じて表現できる児童の育成 一言語活動の工夫、振り返り、フィードバックのサイクルを取り入れた授業を通してー
----------	---

第6学年外国語科学習指導案

指導月日 令和5年10月20日
所属校名 利府町立菅谷台小学校
氏名 渋谷 美香

1 単元名 Unit5「We all live on the Earth.」(東京書籍 NEW HORIZON Elementary6)

2 単元の目標

地球に暮らす生き物について考え、それらの生き物同士のつながりについて紹介するために、簡単な語句や文を用いて話すことができる。「話すこと（発表）」

3 単元観

本単元は、小学校外国語科学習指導要領第2部外国語第2章第2節英語1目標（4）「話すこと」（発表）の「ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする」に基づいて設定した。

本単元では、生き物の暮らしや食物連鎖のつながりを表す表現（「・・・live in ～」 「・・・eat ～」）に慣れ親しみ、自分の選んだ生き物について、また生き物同士のつながりについて話すことができるようになることを主なねらいとしている。

児童は、1学期末（7月）の理科「生き物の暮らしと環境」の単元において、生き物同士には「食べられるもの」「食べるもの」という関係があり、そのつながりが「食物連鎖」であるということを学習している。生き物同士が関わって生きているということ、陸上でも海の中でも食物連鎖の関係があるということを学習してきているため、「フードチェーンについて紹介しよう」という単元のゴールもイメージさせやすい。理科の学習内容を英語で表すとどのような表現になるのか知ったり、多くの生き物の英語の名称を知ったりと新たな知識を得ることができ、児童の意欲を高めながら活動できる単元である。

個々に伝えたい生き物が異なると考えられるため、扱う生き物の名称は多くなると考えられるが、6学年Unit1で動物の単語にある程度触れていることや本単元で扱う表現の「・・・live in ～」 「・・・eat ～」は既習の表現であることから、抵抗感なく話すことができると考える。

4 児童観〔第6学年1組24名〕

本学級の児童は、外国語の授業を肯定的に捉えており、英語を話そうと前向きに取り組む児童が多い。6年生になってからは、話す相手を意識できるよう、「アイコンタクト」に気を付けて話すようにさせたり、相手が話したことに「リアクション」したりするよう声掛けを続けてきた。また、単元の終わりには1分間ペアトークを行い、既習表現を使って英語でやり取りをし合うことに取り組ませてきた。1学期の学習では、特に「相手意識」を持たせた言語活動を設定し、対友達、他校の児童、ALTと伝える対象を変えながら話す活動を行ってきた。

以下は1学期の学習を終えた後に行った実態調査である。

外国語の学習に関する意識調査（令和5年7月20日実施 回答数23人）

質問内容	A	B	C	D
A：とてもそう思う B：そう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない				
①ペアで話す時、相手の話に反応したり、質問し返したり、進んで話すことができましたか。	16人	5人	2人	0人
②発表（スピーチ）する時には、自分の思いが伝わるように話し方やセリフを付け足すなど、工夫をして発表しましたか。	14人	5人	3人	1人

③Padlet で振り返りを書いたことを次の時間の学習に生かしていましたか。	11 人	10 人	1 人	1 人
④これから英語で発表をする時、誰に向けて話したいと思いますか。（複数選択可） ・友達（17人）・ALT（14人）・外国の人（12人）・担任の先生（7人）・家族（7人）				

意識調査①から、児童はペアで話す活動には慣れてきており、6年生当初の頃よりはできるようになったと感じている児童が多い。これまで発表に向けて個人からペア、ペアからグループ、と段階を踏んで話す活動を行ってきた。ペアで話すことには慣れてきたが、グループで話す経験が足りないために、グループ活動が停滞する場面が見られた。

意識調査②の発表（スピーチ）に関してもできるようになったと感じている児童が増えた。しかし、まだできていないと答える児童や発表後の振り返りの中で、「声の大きさ」や「メモを読むだけの発表」に課題を挙げた児童、「ジェスチャーをつけたい」のように、さらにより良い発表にしたいと思っている児童がいた。これらの児童の様子から、話すこと（発表）にもっと自信を持たせ、工夫して話すことができたという満足感を味わわせることができるような活動の工夫が必要だと考える。

意識調査③から、Padlet での振り返りを次時へ生かそうとしている児童が多かったことが分かった。単元を通して振り返りを蓄積できることと友達の振り返りを見ることができ、友達に対して感想を述べたり、「今度は～したい」のように次時への目標を書いたりする児童が増えた。しかし、この Padlet を用いて振り返りをさせた後の教師からのフィードバックが十分でなかったという課題も残った。特に学習活動の中で「うまくできなかった」「分からなかった」という児童に対して個に応じた支援やフィードバックを行うことができなかったためにその後の振り返りに変容が見られない児童もいた。Padlet を用いることを継続しながら、よりよい活用の仕方、フィードバックの工夫をする必要がある。

5 指導観

以上の点を踏まえて、本単元では、「伝えたいこと（自分で調べたこと）を英語で話す」「どのように伝えるか自分で考える」ことができるように以下の点を大事にして指導にあたる。

(1) 相手や目的を意識し、工夫して話すことができるような言語活動の設定

本単元は、理科の学習とのつながりを意識できることから、自分が興味を持った生き物について調べ、「フードチェーンについて紹介しよう」というゴールを設定する。食物連鎖の関係を羅列するだけの発表ではなく、「生き物同士で多くのつながりがあることを伝えたい」「連鎖の頂上にいる生き物には特徴があることを話したい」など、児童の話したい思いを引き出すようにする。その際、理科で扱った資料を提示することで理科の学習を想起させ、他教科で学習したことを外国語で表現できることに気付かせる。また、次の単元も家庭科や社会科と関連させた内容であるため、他教科と英語のつながりを意識させることは、言語への興味関心を高め、次単元への意欲を継続させやすいと考える。

児童の意識調査から、児童は身近な相手に伝えたいという思いが強いことが分かったため、伝える相手を他クラスの友達とした。友達同士ということで安心して話すことができる良さがあり、伝えることができたという達成感を持たせることもできる。友達同士で伝え合うことで、相手の良さに気付かせたり、相手と自分の発表との違いを比べたりしながら、自分が調べたことを友達に知ってもらえるように話したいという気持ちを高めさせたい。また、伝える相手を他のクラスの友達にすることで、同じクラス内で聞き合ったりアドバイスし合ったりする場を多く設けることができることから、グループで話す経験を多く設定することができる。今回、ALT はアドバイザーとなり、児童に質問をしたり言い方の分からないことについて答えたりすることで、発表の際の聞き手ではなく、発表に向けたやり取りをする相手として児童と多く関わるようにする。発表前に ALT とのやり取りを重ねることで英語を話す自信を持たせたい。

(2) 工夫して話す良さに気付かせるフィードバック

自分の発表に課題（声の大きさなど）を感じている児童、よりよい発表にしたいと思っている児童がいることから、児童が自分の思いを友達に対して分かりやすく表現することができるように、教師がフィードバックを行う。教師が行うフィードバックとして以下を挙げる。

- ・ 中間評価の場面を設け、児童同士交流させながら互いの良さを認め合わせるフィードバック
- ・ 授業を振り返り、全体に対して行うフィードバック・個々の児童へコメントで返すフィードバック

以上のようなフィードバックを単元を通して繰り返し行っていくことで、英語で自分の思いを伝える良さを感じさせ、「相手に伝えることができた」満足感を味わわせたり、「もっとたくさんのことを伝えたい」という児童の意欲を高めたりしていきたい。

6 研究主題との関連

研究主題にある児童の姿に迫るため、以下の手立てを講じていく。

【手立て①児童が表現したいと思える言語活動を段階的に行うこと】

- ・ まず、「友達に伝える」という相手意識を児童と共有し、自分の選んだ生き物とそのつながりを伝えるために、生き物が暮らす場所や食べるものについて整理する。その際、教師とALTが発表を想定したデモンストレーションを行ったり既習表現を提示したりして、児童が発表のイメージを持つことができるようにする。
- ・ 次に、生き物同士のつながりについて分かりやすく伝えるために、加えることのできそうな表現はないか考えたり、どの順で話すか自分で考えたりする時間を設ける。単に決められた表現だけを話す練習にならないよう、児童から考えを引き出すようにする。
- ・ 単元のゴールとなる発表に向けて、ペアからグループ（3人）、グループ（3人）からグループ（4人）と互いに伝え合う活動を段階を踏んで行う。話してみる、既習表現を使ってみるという経験を繰り返していくことで話すことへの抵抗を減らしていくようにする。

【手立て②自分の思いをどのように伝えるか考えさせ、学習改善を促すためのフィードバック】

- ・ 授業の導入時、前時の振り返りを基に既習事項を想起させる。振り返りの中で、自分の課題を持ち、改善しようという様子が見られたものを取り上げて共有し、本時はどのように学習を進めていくか考えることができるようフィードバックをする。
- ・ グループ（3人）活動の際に中間評価の場面を設ける。中間評価では、聞く観点に沿って、うまくできたことや難しかったことなどを伝え合わせる。教師は、友達の良さを見つけて自分の発表を修正した児童や表現を加えて話した児童を取り上げ、全体で共有できるようフィードバックをする。中間評価を通して、児童が話す内容を整理し直したり、目的や相手を再確認することで伝え方を変えたり、試行錯誤しながら次の学習へ進むことができるようにする。
- ・ 発表後の振り返りでは、Padletに自身の振り返りと友達へのコメントを記入させ、相互の交流ができるようにする。友達からの直接の称賛とPadletのコメントによって自信を持たせるようにする。教師は「できた」「楽しかった」で振り返りが終わらないよう、振り返りと授業の姿から児童の変容を見取って称賛のフィードバックをしたり、次の学習に向けて改善を促すフィードバックをしたりする。

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

話すこと (発表)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<知識> Where do ~live? ~live in ... What do ~eat? ~eat... および関連語句について理解している。 <技能> 地球に暮らす生き物の暮らしや生き物同士のつながりについて、上記の表現を用いて話す技能を身に付けている。	相手によく伝わるように、地球に暮らす生き物の暮らしや生き物同士のつながりについて、簡単な語句や既習の基本的な表現を用いて話している。	相手によく伝わるように、地球に暮らす生き物の暮らしや生き物同士のつながりについて、簡単な語句や既習の基本的な表現を用いて話そうとしている。

(2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時5／8）

時	目標◆・活動○	評 価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価方法
1	◆生き物の暮らしについてのやり取りのおおよその内容を理解する。 ○デモンストレーションを通して、unitのゴールを知る。 【Starting Out】生き物の暮らしについて話す音声を聞き、分かったことをワークシートに記入する。 【Let's Read and Write】生き物たちが暮らす場所をたずねる文を書く。				
2	◆生き物たちが暮らす場所について話すことができる。 【Starting Out】音声や映像から生き物たちの暮らしについて分かったことを確認する。 【Let's Try】動物クイズをする。 ○自分の興味を持った生き物の住んでいる場所について調べる。 【Let's Read and Write】生き物たちが暮らす場所について書く。				記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
3	◆生き物がどこで暮らし、何を食べているのかたずねることができる。 【Let's Listen】動物の鳴き声クイズをする。 【Let's Listen】暮らしている生き物と食べているものを聞き取る。 【Let's Try】生き物たちがどこで暮らしているのかたずね合う。 ○自分が興味を持った生き物が何を食べるのか（食物連鎖の関係）を調べる。 【Let's Read and Write】生き物たちが食べるものをたずねる文を書く。				
4	◆生き物たちが食べるものを話すことができる。 【Let's Listen】ウミガメの話を聞いて内容を確認する。 【Let's Try】「食べる」「食べられる」関係を使って動物クイズをする。 【Let's Read and Write】生き物たちが食べるものを書く。	発			
5 本 時	◆生き物同士のつながりを伝えるための発表の仕方を考え、伝え合うことができる。 ○選んだ生き物について考え、紹介の仕方を考える。 ○ペアやグループ（3人）で生き物の紹介をし合い、分かりやすい伝え方について話し合う。＜中間評価＞		発		記録に残す評価 行動観察 記述分析
6	◆自分の選んだ生き物の暮らしや生き物同士のつながりについて紹介し合うことができる。 ○前時までを振り返り、発表の練習をする。 ○タブレットで発表ポスターを作成する。 ○グループ（4人）で紹介し合い、互いに感想を伝え合う。	発			行動観察
7	◆自分の選んだ生き物の暮らしや生き物同士のつながりについて発表することができる。 【Enjoy Communication】ポスターセッションの方式で発表をする。 ○食物連鎖ポスターを使って、自分が選んだ生き物の暮らしと生き物同士のつながりについて紹介する。 ○友達の紹介を聞き、感想を伝え合う。		発	発	記録に残す評価 行動観察 タブレット
8	◆絶滅危惧種など環境について考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。 【Over the Horizon】 ・絶滅危惧種や自然との関わりについて知り、環境を守るためにどのようなことができるか考える。 ・Unit5まとめのテストを行う。				記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。

8 本時の計画

(1) 目標

生き物同士のつながりを伝えるための発表の仕方を考え、伝え合うことができる。

(2) 本時の指導に当たって

- ① 前時までに扱った表現を確認しながら、発表のイメージを持たせるためにデモンストレーションを

行う。そのデモンストレーションから、これまで学習したことを使って発表を膨らませられないかを児童に問い掛けて考えさせる。児童から考えが出ない場合は、発表の工夫を加えたデモンストレーションを行い、気付かせるようにする。

- ② 生き物同士のつながりについて分かりやすく伝えるために、話したい内容を自分で考え整理する時間、ペアで話す時間と段階を踏み、その後は3人グループで伝え合う場を設ける。3人グループで伝え合う場を中間評価の場面とする。3人で互いに聞き合い、伝え方の良さを話し合ったりアドバイスをし合ったりする。教師は既習の表現を付け足すなど友達に分かりやすく伝えることができたグループや児童を取り上げて紹介し、まねたり参考にしたりしてもよいことを伝える。互いの発表の良さを伝え合いながら、友達に分かりやすく伝えるための発表に修正していくようにフィードバックをする。
- ③ どのように自分の発表を工夫したかについて Padlet を用いて振り返りをさせる。教師はグループでの伝え合いの過程を称賛した上で、今後の発表に向けての児童の意欲を喚起する。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問／・予想される児童の反応	形態	教師の働き掛け及び指導上の留意点	評価
導入 4分	1 Greeting 挨拶をする。 2 Review 前時までの学習内容を振り返る。 ・○○ live in theや ○○ eatは言えるね。 ・フードチェーンのことは言えそうだな。	一斉	2 ・前時までの児童の様子と振り返りから、本単元までに扱う表現の中で、定着が十分でなかったものを取り上げ、重点的に復習する。 ・黒板に既習表現を提示しておき、児童が見ていつでも確認できるようにする。 ・前時の児童の振り返りを紹介し、前時の学習を踏まえながら、生き物同士のつながりを伝えるために発表の仕方を考えるという本時のゴールへつなげるようにする。	
展開 35分	3 Today's goal フードチェーンを紹介するための発表の仕方を考えよう。 Demonstration (T1) Sea turtles live in the sea. Sea turtles eat jellyfish. Jellyfish eat plankton. Demonstration (ALT) Lions live in the savanna. Lions eat zebras. Zebras eat grasses. ○フードチェーンを分かりやすく紹介するためにどのような発表にすれば良いか考えよう。 ・生き物のことを詳しく伝えたいから文を付け足そうかな。 ・友達に考えてもらうためにクイズにしようかな。 ・たくさんの連鎖を話して驚かせたい。	一斉	3 ・始めに、教師とALTが前時まで学習した表現だけを用いたデモンストレーションを行う。単調な発表になってしまうことに気付かせ、これまでの学習から使うことができそうな表現がないか問い掛ける。 ・友達同士で伝えるため、聞き手にとって楽しく、分かりやすい発表になるよう、相手を意識した伝え方を考えさせるようにする。 ・生き物同士のつながりなどについて友達に知ってもらうために、用いることのできそうな表現や話す順序など、児童から考えを引き出すようにする。 ・児童から考えが出なかった場合、教師が再度デモンストレーションを行ったり、前時までに扱った動物クイズを想起させたりしながら、児童に気付かせるようにする。 ・各バージョンを組み合わせた発表や例示した方法以外の発表があっても良いことを伝える。	
	①プラスバージョン (連鎖+特徴) Lions can run fast. Lions have strong teeth. Lions eat zebras. ②博士バージョン Eagles eat snakes. Snakes eat frogs. Frogs eat grasshoppers. Grasshoppers eat grasses. ③クイズバージョン Where do lions live? Lions live in the savanna. What do lions eat? Lions eat zebras. What do zebras eat? Zebras eat grasshoppers.			
4	自分で発表の仕方を考える。	個	4 ・前時までの振り返りの様子から、自力で考	

	○どのような発表の仕方にするか考えて発表メモを作ろう。 - クイズにして連鎖の関係を伝えてみようかな。 - たくさんの連鎖を紹介したいな。 - 生き物同士の関係が分かるように特徴を入れて詳しく話そう。 5 ペアで伝え合う。 - まだ生き物の言い方が心配だからメモを見ながら話そう。 〇〇さんに伝えることができた。 6 グループで伝え合う。 〈中間評価〉 聞き方の観点 - 友達がどのようなセリフを加えたか考えながら聞くこと。 - 自分のセリフの作り方と比べながら聞くこと。 - 発表を聞いて良かったことを見付けること。 - 私も動物の特徴を付け足すと分かりやすい発表になりそう。 - 同じ生き物でも話す順やセリフが違うとおもしろいね。 7 自分の発表を見直す。 ○グループで伝え合ったことを振り返って、自分の発表内容を見直したり話す練習をしたりしましょう。	ペア グループ 個	えることが難しい児童には、例示した中から選ばせ、アドバイスをしながらセリフ作りを行う。また、発音の確認をするなど個別に励まし、ペア活動につなげるようにする。 - 生き物同士のつながりや生き物の英語の言い方を調べたい児童にはタブレットを使用させる。発音を確認したい場合はA L Tに尋ねるようにさせる。 - A L Tには児童の様子を見てもらいながら、Where do …live? What do …eat?のように児童に質問をしてもらい、児童が答えることができるか適宜確認してもらう。 5 - ペアで伝え合う際には、メモを見ながら話したり、友達に聞きながら話したりしても良いことを伝える。 6 - グループでの中間評価の際には聞く観点を与え、その観点に沿って互いの発表にフィードバックし合うようにする。 - 教師とA L Tは机間指導しながらグループの活動で困っている児童がいればアドバイスする。 - 互いの発表の良さに気付き、伝え合っていたグループがあれば紹介し、良かった点を称賛する。 7 - 自分の発表を見直し、改善できることはないか考えさせる。見直しが終わったら、自信を持って話すことができるように練習させる。	思判表 自分で選んだ生き物同士のつながりについて、簡単な語句や既習の基本的な表現を用いて、伝え合っている。 <行動観察>
終末 6分	8 振り返りをする。 「Padlet」に振り返りを打ち込む。 ○発表に向けて、どのような工夫をして話すことができたか振り返ってみましょう。	個 一斉	8 - 本時の児童の取組の様子を見て良かった点を話す。A L Tからも児童に向けて称賛のコメントをもらう。 - 友達の良さに気付いた振り返りや中間評価を経て自分の発表を整理し直したり修正したりした振り返りがあれば取り上げる。全体で共有することで、自分の発表をどのようにしていきたいか考えさせ、次時への意識を高めさせるようにする。	

(4) 本時の評価

観点	評価規準（B）	十分に満足できる（A）	努力を要する児童（C）への手立て
思考・判断・表現	生き物同士のつながりについて、簡単な語句や既習の基本的な表現を用いて話すことができる。	生き物同士のつながりについて分かりやすく伝えるために、文の順序を変えたり、文を付け足したりする工夫をしながら話すことができる。	既習事項を使った例文を示し、どの表現を使って話すことができそうか選べるようにする。アドバイスをしながら、適切な語句や表現を用いて生き物同士のつながりについて話すことができるようにする。

(5) 準備物

①教師：デジタル教科書、タブレット ②児童：教科書、タブレット

(6) 板書計画

Unit4 Our goal フードチェーンについて紹介しよう<クラス間ポスターセッション> Today's goal フードチェーンを紹介するための発表の仕方を考えよう。			
①プラスバージョン Lions can run fast. Lions eat zebras.	②博士バージョン Eagles eat snakes. Snakes eat frogs. Frogs eat grasshoppers. Grasshoppers eat grasses.	③クイズバージョン Where do lions live? Lions live in the savanna. What do lions eat? Lions eat zebras. What do zebras eat? Zebras eat grasshoppers.	組み合わせてもいいね